

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
1	<p>1. 本構想の目的と位置づけ（P4） 区民ニーズアンケートやフォーラムでの意見を踏まえて作成とあるが、区民ニーズは何を捉えているのか。また、十分なサンプル数の調査が行われたのか。</p>	<p>平成30年度に、学校跡地の活用方法の基本的な考え方等について、区民ニーズ調査アンケート及び「生野区リノベーションまちづくりフォーラム」開催の際にアンケートを実施し、562件のご意見をいただきました。いただいたご意見では、学校跡地の活用方法の基本的な考え方に7割以上の方が共感しているとの回答をいただきました。これをベースに今後、官民協働、市民協働でさらに意見を交わしながら学校跡地のさらなる利活用とまちづくりの進め方を具体化していくこととしています。</p>
2	<p>2. 生野区の現状 (4) 生野区の抱えている問題（P15からP19） 「災害に伴うまちへの甚大な被害の可能性」の項目以外について客観的根拠が示されておらず課題の信ぴょう性が乏しいのに再生ビジョンに反映されている。客観的根拠を示すべき。</p>	<p>いただいたご意見につきまして、構想策定に合わせてこの構想にかかる「資料編」を公表しますので、その資料をご参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モビリティマネジメントについて：資料編 P29参照 ・多文化共生への理解について：資料編 P9からP11参照 ・産業の疲弊について：資料編 P18からP20参照 ・ネガティブイメージの定着 「平成29年度区民アンケート調査によると、回答された6割の方が生野区に対し治安が悪い等のネガティブなイメージを持っている」旨を本文に追記します。 ・子、孫の世代が帰ってこない：資料編 P6参照
3	<p>なぜ、子育て世代が生野区から流出するのか。その主因が何であり、それに対して本施策でどのように対応するのか。</p>	<p>本構想(案)に掲載されているように、生野区が抱えている問題のひとつとして、子育て世代の流出が挙げられます。その主因としては、魅力的な教育環境や居住環境が整っていないことや、かつての治安の悪さなどによるまちのネガティブイメージの定着、さらには職住近接の産業が多い中で魅力的な産業や仕事の創出が停滞していることなどが考えられます。</p> <p>こうした背景に加え、同級生が少ない、子育てがしづらい等の理由で子や孫の世代が地元に戻ってこないという声も多く、流入が少なく流出が多いという事態につながっています。</p>
4	<p>3. 再生ビジョン (1) 生野区の地域経営課題（解決の方向性）（P22） 子育て世代の人口流入を考えると、区外の方にも来てもらい、生野区を知ってもらうきっかけとする必要もあるかと考えるがどのようなシナリオを考えているか。</p>	<p>このような事態を解決するために、本構想(案)のP21以降にあるように、今すでにある生野区のまちの強みや魅力、資源や潜在力を活かし、子どもたちや子育て世代に魅力的な教育と居住の環境を創出させることで、まちのイメージがよい方向に変わっていき、ひいては子どもたちや子育て世代を中心とした人たちの流入、地価の上昇など、生野区全体の再生につながっていくことを目指す再生ビジョンへのアプローチとして「みんなの学校とまちぐるみ教育」を進めていきます。</p> <p>さらには、このような生野区の有するまちの魅力的な資源を様々な手法を通じて区の内外に積極的に発信し、戦略的にプロモーションしていくことで、多方面に生野区を知ってもらうきっかけとし、最終的には「生野区将来ビジョン」に掲げる「来たい、住みたい、住み続けたい」生野区になるように進めていきます。</p>

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
5	<p>3. 再生ビジョン (2) 解決する手法としてのリノベーションまちづくり (P23) 生野区のまちづくりにおいては、生野区を持つ資源の活用（内発的発展）と社会的包摂の視点と経済的活性化の3つが重要な理念的指標だと考えるが、まちづくり構想（案）には社会的包摂の視点が欠落していると考え。このため、P23の項目に「ジェントリフィケーションによる弊害がないよう、すべての人がともに生きることができる社会的包摂の視点を最大限尊重する。」の文章を追加してほしい。</p>	<p>いただきましたご意見の社会的包摂の推進は重要な理念であると認識していることから、「すべての人に居場所と持ち場のある社会的包摂の視点を大切にす」の文章を追記します。</p>
6	<p>住民間の「学ぶ」「学びあう」ことを中心にすることで学校維持費捻出は難しいスキームのように思える。本提案は経済性の観点から現実感があるプランなのか確認したい。</p>	<p>運営スキームについては、今後、構想を基に各小学校ごとに設置する学校跡地検討会議で地域のニーズをお聞きしながら、校舎と校地の具体的な活用・運営計画を策定することとしています。運営事業者が施設の維持管理に係るコストを生み出しながら管理する方法等、地域と運営事業者等が連携しみんなで作る持続可能な「みんなの学校」をめざし、他自治体の成功事例も参考にしながら、検討していきます。</p>
7	<p>3. 再生ビジョン (4) 再生のアプローチ：みんなの学校とまちぐるみ教育 (P26からP27) 「まちぐるみ教育」を推進するためには、「学校選択制を廃止」すべきだと思った。今回の構想に「学校選択制を廃止」を盛り込んでほしい。</p>	<p>学校選択制は、学校がそれぞれで取り組んでいる教育活動など、各学校の特色で入学する学校を選択できる機会を保護者の皆さまに提供することにより、学校同士が切磋琢磨し合い、学校環境の活性化につなげることで、学校における教育力の向上を図っていくことを目的としたもので、生野区西部地域を除く、大阪市立のすべての小中学校において導入されています。現在、生野区西部地域の小中学校については、学校再編の進捗に合わせ、区民の皆さまのご意見もお聞きしたうえで、学校選択制を導入していく予定です。</p>
8	<p>4. 4つの中学校区のエリアイメージとまちぐるみ教育のビジョン (P31からP47) 中学校区でエリアイメージを行うなら「学校選択制を廃止」すべきだと思った。今回の構想に「学校選択制を廃止」を盛り込んでほしい。</p>	<p>一方、「まちぐるみ教育」は、まちのあらゆる場所において、あらゆる世代の方が学びたいことを学ぶことのできる、新しい教育環境づくりをめざすものであり、小中学生が学ぶ場である学校の教育とは異なるものであると考えております。</p>

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
9	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開（P48からP93） 「子育て世代に選ばれるまち」を目指すのであれば、ボール遊びを自由にできる場として、学校跡地を開放する日（特に土日祝や長期休暇）があっても良いのではないかと。 地域によってほとんど消滅している子供会と、はぐくみネットコーディネーターや青少年指導員の方々など、新校区になるのを機に一度リセットし、その校区全体でどの子どもも平等に参加できるレクリエーションや子どもたちが何か体験できる場づくりを行ってほしい。</p>	<p>校舎と校地の活用方法等については、地域のニーズを踏まえつつ、持続可能な活用計画を策定することが必要であり、今後構想を基に、校舎と校地の具体的な活用・運営内容を校地ごとの検討会議や(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）等で議論し、活用計画を策定していきます。 ご意見いただいた趣旨も参考にしながら、計画の策定に向けて取り組んでいきます。</p>
10	<p>学校の跡地に関して、保育園を作るのはどうか。特に、生野区の北部は、保育園が少ない。保育園やこども園があれば、その周辺に子育て世代の居住も増えてくるのではないかと思う。 また、北区にあるようなキッズプラザのような施設もあれば良いと思う。</p>	
11	<p>校舎の活用案について次の内容を提案します。 ①不登校や発達障害をもつ児童・生徒に対し、学校以外の場での学習等に対する支援の充実としてフリースクールを設立する。 ②障がい者就労支援事業所・作業所を集結させ企業団地化し、家賃等の節約の他、1か所に集まっているメリットを生かし、業務の共通化、効率化等が図れる。 ③中小企業・ベンチャー企業等の新事業創出、創業、研究開発、販路開拓等を支援する場とする。</p>	
12	<p>資本に頼らない持続可能な官民連携の学校跡地の活用案について次の内容を提案します。 ①子ども（地域）食堂（フードバンク連携）を入れる。 ②保育所、介護施設、中学校を小学校に統合し疑似大家族・疑似社会の場とする。 また、地域特性を活かしたNPOや任意団体などに場所を無償提供する。 ③宿泊施設として活用（インバウンド）</p>	
13	<p>以下のような利用は想定されているか。 ・スタートアップ企業集積拠点、コワーキングスペースとして企業に格安で入居してもらう。 ・企業人が集うサロン、またはカフェバーなど生野区内外の人的有機的つながりが生まれる場。 ・生野区内企業の多人数用イベントスペース ・NPO法人事務所、活動スペースとしての場 ・外国人留学生住居（有料・格安） ・アトリエやギャラリーなどアートの拠点（有料・格安） ・イベントスペース（有料・格安）</p>	

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
14	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開 (1) CASE STUDY01～ (3) CASE STUDY03 (P49からP71) ケーススタディの3つとも、校舎を賃貸住宅にするとの案。これまでの区役所の説明では学校跡地は避難所として残しますと言ってきたはずである。防災機能を充実するといっても避難所としての空間は必要である。住宅になってしまうと住民は避難できない。具体的な避難計画を示す必要があるのではないか。</p>	<p>学校跡地の活用においては、発災時の避難所として必要なスペースの確保が前提であり、校舎・校地活用は、避難所機能を担保したうえで、その他の空間における様々な活用方法を検討します。 また、避難計画については、これまでと同様に、地域で策定される地区防災計画で示します。</p>
15	<p>集客性を狙い、かつ賃貸住宅として活用するとなれば、災害時の避難所として避難者の収容は可能なのか。少なくとも地域住民の避難所として大丈夫であることの試算を示すべき。</p>	<p>なお、校舎と校地の活用方法等については、地域のニーズを踏まえつつ、持続可能な活用計画を策定することが必要であり、今後構想を基に、校舎と校地の具体的な活用・運営内容を校地ごとの検討会議や(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）等で議論し、活用計画を策定していきます。</p>
16	<p>ケーススタディにあるように一部を賃貸住宅にすることで、防災時の速やかな避難所開設につながる面もあるが、活用の範囲が狭まるのではないかとと思われるのでゲストハウス等の宿泊施設の方が良いのではないかとと思う。</p>	<p>ご意見いただいた趣旨も参考にしながら、計画の策定に向けて取り組んでいきます。</p>
17	<p>ケーススタディでは体育館も使うことになっているが、選挙の際の投票所はどうなるのか。お年寄りに今以上に遠い投票所に行かせるつもりなのか。</p>	<p>投票所の設置場所は、選挙の都度、区選挙管理委員会において選定を行い、正式に決定しています。そのため、現在、生野区では基本的に区内の各小学校の講堂に投票所を設置していますが、状況によっては別の場所を選定することになる場合もあります。なお、選挙は「まちづくり」を進めていくうえで重要な役割を担っていることから、できる限り従前どおりの場所の近隣に投票所を設置できるよう調整を図りながら投票環境の維持に努めていきます。</p>
18	<p>CASE STUDY01「フードビジネスを主体とするコンセプト」は御幸森小学校跡地が想定され、その立地条件からみて理にかなっており賛同するが、CASE STUDY02～04は再生ビジョンまでは具体的な立地条件等の具体性に欠けており、賛同しきれない。</p>	<p>各CASE STUDYにつきましては、活用コンセプト案を記載しているものであり、具体的な校舎と校地の活用方法等については、今後構想を基に、校舎と校地の具体的な活用・運営内容を校地ごとの検討会議や(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）等で議論し、活用計画を策定していきます。</p>

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
19	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開 (1) CASE STUDY01～ (3) CASE STUDY03 (P49からP71) 校舎活用案として3点示されているが、それぞれに対する感想は次のとおり。 ・CASE STUDY01について、個人的には3つのテーマで一番魅力的に感じるが「飲食・食販物の店舗が集積」については一定以上のクオリティの店舗が集積できるかに成否がかかっていると感じる。 ・CASE STUDY02について、一番生野区らしいテーマだと思うが「DIYの暮らしに興味を抱いた人が移住」するほどの魅力を創出できるかは正直疑問である。 ・CASE STUDY03について、現在の区の高齢化状況からすると一番現実的なテーマだと感じる。「子育て世代に選ばれるまち」を目指すのは良いことだが、単独の子育て世代がわざわざ生野区を選ぶところまでっていくのはかなり困難ではないか。現実的には親世代（高齢者）にとって魅力的なまち→それら世代の子の世代が生野区を選ぶという方向を目指すべき。</p>	<p>各CASE STUDYにつきましては、活用コンセプト案を記載しているものであり、具体的な校舎と校地の活用方法等については、今後構想を基に、校舎と校地の具体的な活用・運営内容を校地ごとの検討会議や(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）等で議論し、活用計画を策定していきます。 また、多世代・多文化・すべての人が関わる「生野区独自」のまちづくり教育の実現とともに、「みんなの学校」の具体化を通じ、生野区全体の再生を実現していきます。</p>
20	<p>素晴らしいアイデアと思った。クラフトとかすごく面白いし、生野のものづくりの特徴が出ていると思いました。音楽室跡地でライブ、視聴覚室跡地でシアターとかも面白いと思う。</p>	<p>校舎と校地の活用方法等については、今後構想を基に、校舎と校地の具体的な活用・運営内容を校地ごとの検討会議や(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）等で議論し、活用計画を策定していきます。 ご意見いただいた趣旨も参考にしながら、計画の策定に向けて取り組んでいきます。</p>
21	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開 (5) 運営スキーム案 (P77からP80) 未来型（稼ぐ公民連携方式）の手法によってエリア価値の上昇を実現させることができればとても魅力的と考える。しかし、実現の可能性を示していただきたく客観的な根拠となるものを追記してほしい。</p>	
22	<p>S P C（特別目的会社）で運営する場合、最終的には学びの参加者からの学費等の徴収が必要になるという前提か。</p>	<p>運営スキームについては、今後、構想を基に各小学校ごとに設置する学校跡地検討会議で地域のニーズをお聞きしながら、校舎と校地の具体的な活用・運営計画を策定することとしています。運営事業者が施設の維持管理に係るコストを生み出しながら管理する方法等、地域と運営事業者等が連携しみんなで作る持続可能な「みんなの学校」をめざし、他自治体の成功事例も参考にしながら、検討していきます。</p>
23	<p>4案すべてに具体的な数字が明確でないので判断しかねるが、従来型は行政が税で賄う限り維持できないと思う。S P Cで行うかは議論の必要性があるとして官民連携のもと、まちづくりを真剣に考えている民間の「まちづくり会社」に委ねるしかないと思う。</p>	

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
24	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開</p> <p>(6) みんなの学校のまちへの影響（P84からP87） 防災機能の充実の項目で、ものづくりの学校の場合の校庭活用はいずれの場合も可能と考えられるため、ものづくり学校の場合の事例を適切な内容として提案すべきである。</p>	<p>いただきましたご意見の趣旨を踏まえ、P85ものづくりの学校の場合の防災機能の充実の項目について「食事や食料の提供に加え、ものづくりならではの機材、設備を活用し、快適な避難空間の創出」に変更します。</p>
25	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開</p> <p>(9) 災害時における「みんなの学校」（P90） 避難所として残るとしても、 ①校舎の耐震性は大丈夫なのか ②校舎の老朽化がひどいが、いつ建て替えるのか</p>	<p>大阪市立の小学校、中学校、高等学校につきましては、すべての学校で耐震化が完了しています。 老朽校舎への対応としては、建築後40年頃に躯体の補強等を行う長寿命化改修を図ることで、築80年程度まで延命化することを基本としています。構造体の老朽化が著しく進行するなど、延命化が困難な場合は、老朽改築を実施して行くこととなります。なお、老朽改築にあたっては、建築後60年程度の学校を対象としており、各学校の状況に応じて改築計画を進めていくこととなります。 また、学校再編後の跡地となる校舎については、状況に応じて個別に対応することとしています。</p>
26	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開</p> <p>(10) 「みんなの学校」を拠点とした交通政策（P91） 「みんなの学校」を拠点として、まちを循環する路線バスを走らせることが可能であれば、スクールバスにも転用できるだろうし、そうなれば、学校再編への理解が進むのでは？</p>	<p>今後「みんなの学校」という拠点を中心に、まちの活性化を図っていくうえで拠点を結びつけることは重要であり、構想（案）に記載しているように拠点を結びつける地域コミュニティ交通について、子ども、高齢者の移動手段としての活用も含め検討していきます。</p>
27	<p>5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開</p> <p>(11) 「みんなの学校」における公的スペースの活用案（P92） 既に学校内で行われている活動やスペース利用は可能な限り残すとあるが、80ページの運営スキーム案のように学校活用会社が一括して家賃を払い複数の学校を運営することになった場合、スペース利用の際に利用料を払うことになるのか。</p>	<p>構想（案）に記載のとおり、既に学校内で行われている活動やスペース利用は可能な限り残すこととしていますが、具体的な事業計画等については今後の検討会議等で地域のご意見を聞きながら決定します。</p>
28	<p>地域コミュニティスペースは、検討会議からの意見を聞いて決定とあるが、管理運営は地域が行うのか、全体の管理運営の中で借りることになるのか。大きな判断材料になるので明確に記載してほしい。</p>	
29	<p>その他</p> <p>もと鶴橋中学校用地活用の大まかなルールや条件はいつ頃決まるのか。</p>	<p>もと鶴橋中学校用地は、大阪市の未利用地活用方針に則り、売却処分を基本としていますが、運動場と体育館は暫定的に桃谷中学校の第二運動場、第二体育館として活用するとともに、学校体育施設開放事業活動場所としても利用されています。その他の活用に関しては区役所へご相談ください。</p>

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（案）に対する意見と生野区の考え方

【募集期間】平成31年4月17日（水）から令和元年5月17日（金）まで

【募集方法】持参、郵送、ファックス、電子メール

【募集結果】17名の方から、延べ34件のご意見をいただきました。

いただいたご意見についての当区の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	生野区の考え方
30	<p>その他 住民参画は必要だが、声の大きな一部の人の既得権にならないように、若い人の意見や民間事業者のアイデアも聞いてほしい。そうしなければ、中途半端なものしかできず、まちが変わるだけのインパクトは得られない。</p>	<p>校舎と校地の活用方法等については、今後開催予定である(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）時の意見も踏まえていくとともに、マーケットサウンディング調査も行います。また、今後校舎と校地の具体的な活用・運営計画を策定していく検討会議等には、地域の方の他、学校跡地を活用したまちづくり活動に興味のある方も交えて議論していきます。</p>
31	<p>そもそも学校再編への理解が進んでいないのに、このような構想を作ると、反対している人たちのより一層の反発を招くのではないか。</p>	<p>すべての学校再編が決まっているわけではありませんが、一方で学校跡地をどのように活用するのか具体的に示してほしいとの声が多く寄せられていたことから、まちづくり構想（案）をお示しし、幅広く皆さまからご意見をいただくためパブリック・コメントを実施したところであります。引き続き、多くの区民の皆さまから学校再編についてのご理解をいただけるよう取り組んでいきます。</p>
32	<p>「みんなの学校」の表現が新鮮さも独自性もない。主旨は理解するが、生野らしく変えるべき。 また、構想（案）の前に基礎的なことについて区民の理解や支持を得られているのか。私の周りにいる人たちに聞いてもほとんどの人がこの一連の動きを知らない。今の状況は一部の人に向けての発信にしかうつらない。まずは各地域で「通訳」をしてくれる人を募り広めてもらってはどうか。良い悪いの話ではなく、みんなが折り合いの付くところを考えて推進してほしい。</p>	<p>「みんなの学校」の表現については、生野区将来ビジョンにもあります、すべての人に「居場所」と「持ち場」という理念に沿ったものとして採用したものですのでご理解ください。 また、校舎と校地の活用方法等については、今後、地域の方の他、学校跡地を活用したまちづくり活動に興味のある方も交えた検討会議等により具体的な活用・運営内容の活用計画を策定していく予定であり、また、今後(仮)みんなの学校会議（ワークショップ）等も開催し、広報に努めていきます。 ご意見いただいた趣旨も参考にしながら、取り組んでいきます。</p>
33	<p>区役所の区民情報コーナーに置いているのは概要版とご意見用紙だけだった。せっかくの案なので気軽にすべてが貰えるよう配慮していただきたい。</p>	<p>資料につきましては、ホームページ掲載の他、生野区役所（区民情報コーナー、4階44番窓口）、生野区民センター、市民情報プラザにおいて配架しましたが、ご意見のとおり概要版と意見等記入用紙を配架し、全体版については閲覧用とさせていただいております。 このたびは配慮が足りず申し訳ございません。今後ご意見を参考に改善に努めてまいります。</p>

34	<p>その他のご意見等 私どもも学校を核としたまちづくりを推進することにより様々な社会課題を同時に解決していけると考えており、「みんなの学校」構想のような拠点やモデルタウンを全国ネットワークでつなぎ、情報管理センターを設置することで社会課題を同時解決していける仕組みをあらゆる主体に提案している。</p>
----	---